毛呂山思い出写真館

第２団地19街区付近からの景色
昭和44年ごろ（松田太郎さん提供）

第２団地通りから19街区を写したし写真です。当時は、道が舗装されておらず、まだ住宅もまばらで、二階建ての建物も多くありませんでした。手前の看板に「ぬかるみ徐行交通道徳」とあるように、悪化路での交通マナーが問題になっていたようです。

現在の風景

お知らせ
昭和６０年代ごろまでの昔の写真を募集しています。ご提供いただける方は、役場秘書広報課広報広聴係☎（２９５）２１１２内線３３２までご連絡ください。

徒然歳時記

撫子（なでしこ）

七草といえば、春の七草を思い浮かべますが、秋にも七草と称して、野に咲く花があげられています。春の七種と違い、秋の七草に直接何かをする行事は特になく、野の花が咲き乱れる野原を散策して短歌や俳句を詠むことが、古来より行われていたようです。秋の七草は、万葉の歌人である山上憶良（やまのうえおくら）が詠んだ七草の歌をもって秋の七草と考えられ、萩（はぎ）、尾花（おばな）（ススキ）、葛（くず）、撫子（なでしこ）、女郎花（おみなえし）、藤袴（ふじばかま）、桔梗（ききょう）の７種類が一般的です。この七草を、現代では頭の文字を組み替えて“おきなはすくふ”「沖縄救う」として覚える人もいます。

そのなかでも、ピンク色で可憐な花をつけるのが撫子（なでしこ）です。「撫でるように愛しい子（女性）」という意味の「撫でし子」から、女性や子どもにたとえられて、『万葉集』や『枕草子』などで女性や秋の七草の一つとして和歌に詠まれました。そして、その派手さの無い淡紅色の美しい花と、か弱くも慎（つつ）ましく控えめで、清らかで凛（りん）とした美しい日本女性の理想像が重なって、女性の美称の意味になったものです。

なでしことといえば、先のロンドン五輪で大活躍した女子サッカーが記憶に新しいところですが、大人と子どもほどの体格差があるように見えた対戦国に対し、チームワークと気迫で相手を圧倒していました。そのほかの競技でも日本女性の活躍は目覚しいものがありました。一見、大和撫子とは無縁に思える戦いだったかもしれませんが、どんな苦境にも負けない真の強さというものは、か弱く控えめな日本女性にこそ備わっているのかもしれません。この秋、野に咲く撫子に出会えれば、その答えを教えてくれるのではないでしょうか。

編集後記
サマーフェスティバルは今年で９回目になりますが、何度見ても打ち上げ花火には感動します。その美しさなのか、迫力なのか。大きな花に吸い込まれそうな感じを受けます。蜜を吸うハチのように。（B）

わがやのアイドル

大平（おおだいら）　樹菜（じゅな）ちゃん
（３歳４か月）

３歳になって言葉がたくさん出てくるようになり元気に歌を歌うのが大好き。

十八番は「ガッチャマンの歌」。

花井　綜志（そうし）くん
（１歳２か月）

絵本が大好きな綜志。お気に入りの本を片手に一生懸命ハイハイして「ンン!!（読んで!!）」と持ってきてはパパやママのお膝の上にちょこんと座ります。たくさんの本を読んだり、いろいろな経験をしたりして心豊かな優しい子に育ってください。

■秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。
申・問　役場秘書広報課☎（295）2112 内線 332

人口　36,021 人（－38 人）
【男 17,952 人（－19 人）　女 18,069 人（－19 人）】
世帯　15,686 戸（－19 戸）
※平成 24 年９月１日現在（カッコ）内は前月比

□広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。